

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 10 月 10 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491900100		
法人名	有限会社 ブレイクスルー		
事業所名	グループホーム 楽居		
所在地	三次市南畑敷町488番地3		
	電話番号	0824-55-6200	
自己評価作成日	令和 元年 8 月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 元年 10 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 元年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

・理念である「自分らしく、ゆったり、ほっこり」を実践し、穏やかにそして出来ることは自分でその人の好きなこと大切なことのこだわりを最後まで大切に自立支援している。
・日々の生活の中で本人のつぶやきや会話に注意を払い、行きたいところやしたい事を知り本人の意向に添った買い物や外食、ドライブなど利用者様のご希望をかなえるように支援し、閉塞感を感じることがないように配慮している。毎月ごとに季節行事を取り入れ日々の楽しみを支援している。
・職員1人ひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりを持つようにし、落ち着いた環境で寄り添い、ゆっくりとコミュニケーションを図り、多くの刺激(五感の活用・行事)を取り入れ、共に生活しています。
・市内の地域密着型事業所からなる地域密着連絡会議に参加し情報交換し合い運営に活かしている。
・医療連携を取りながら、本人、家族の意向に添った看取り介護を行っている。
・当ホームは、過去に水害の起きた地域であり、災害対応マニュアルを作成し、災害(特に水害)訓練を計画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

商業地帯の一角にある。近隣にはドラッグストアなど、大型の商店が沢山あり、利用者の希望で散歩がてら買い物に行かれている。とても便利な環境である。また、ケア面も管理者をはじめ、職員の優しい笑顔が心を和ませられ利用者も理念にある「ほっこり」と過ごす事ができている。常に日々の会話を大切に、平等に声かけをされ、寄り添い、その人の思いに耳を傾け、一日をゆったりと安心して、自分らしく過ごしてもらおう事を大切に支援を心掛けている。食に関しても旬の食材を多く取り入れ、季節感を味わってもらおう等、細やかな心使いが場面場面で感じられる。地域との関わりも、認知症カフェを開催し、民生委員や地域の方の参加も多く、その中で相談等も受け入れられ、地域貢献に繋がられている。運営推進会議にも市議会議員をはじめ、立場の違う方々の意見や情報、助言等が多く得られ、毎回有意義な会議となり、協力体制も構築されている。避難訓練もあらゆる災害に対し、慌てず速やかに対応できる様、話し合いを重ねられ実践力を身につける様取り組まれていると共に居室のドアにそれぞれの利用者の身体状況と処方されている薬等を記入され、避難後の被害が起きない工夫をされている。全職員が利用者本位の生活ができる様努められ、穏やかで、温かな、家庭的な雰囲気のある事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく、元気でゆったり、ほっこり、のんびりと過ごして頂きます」の理念を目標とした、目標管理制度に取り組んでいる。	分かりやすい理念を全職員が日々意識し、実践に繋げている。ミーティング等でも周知し、利用者が一日を自分らしく、笑顔でゆったりと過ごしてもらえる様務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設イベントの案内を行うようにしている。また、入居者の散歩や地域の商店への買い物に出かけ地域の方と出会う時には、声をかけるようにしている。利用者様の家族の方が野菜を持って来られたり、友達の面会があり、馴染みの付き合いが継続している。	事業所の行事(祭り)には近隣へ案内を出し、参加を呼び掛けたり、近くの商店に買い物に出かけ、出会う機会を多く持ち交流に務めている。又、毎月、認知症カフェを当施設で開催し、民生委員の方の協力があり、地域の方の参加も得られ、地域への認識、貢献に繋げ、多くの方々との交流に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域の自治会4地区が合同で認知症カフェを楽居施設を提供し開催されている。認知症についての理解をして頂くために、地域の方に認知症について話をしている。利用者様も認知症カフェに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し、活動状況の報告をはじめ、外出支援・防災訓練・研修・事故報告等を報告し、各委員より意見・要望を頂きながらケア内容の充実と地域に根ざした施設作りに努めている。	利用者、認知症家族の会代表、民生委員複数、市議員、地域住民、行政、社協職員、包括職員、近隣の施設職員等の参加の下、現状を多岐にわたり報告し、立場の違う方々から多くの意見や助言を得、サービスに活かしている。毎回有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として参加して頂き、助言を頂くとともに、町内の情勢を提供して頂いている。各委員より、意見・要望を頂き援助に反映するようにしている。市職員等と連絡を取り合い、介護保険に関する事などを確認し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議への参加があり、現状や取り組み等に関しては理解が得られている。疑問点や相談事項があれば気軽に相談し、アドバイスをしてもらおう等、協力関係を築く様務めている。地域密着型サービス事業所連絡会にも参加し連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各利用者様の居室には鍵が設置してあるが、玄関や居室は解錠状態で運営している。身体拘束の廃止については、職員も十分に理解し、やむなく行う場合は家族の同意を得るようにしている。身体拘束をしないケアについて研修やマニュアルで確認し意識統一している。	外部研修に参加し、その資料を基に内部研修を行い全職員正しく理解されている。リスクに対しては要因の把握に努め、見守りや工夫を行い、動きを制止しない支援に努めている。玄関の施錠を含め拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しユニット毎に委員を選出し定期的に自らの援助を振り返り、気づきを報告している。全体会議等で定期的に啓発している。また、研修会にも参加し、事業所内での防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・生活相談員は、以前成年後見人制度を利用している入居者様がいた為、外部研修に参加し権利擁護と成年後見人制度について理解している。事業所内での研修も実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には、契約及び解約等の内容について十分に説明し、不安や疑問、意向を聞きながら納得を得ている。又制度改正時は、その都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見及び苦情BOXを各フロアに設置しているが、利用されている方はいない。日常的に意見の話しやすい雰囲気づくりに努め、家族の面会時には日常の生活の様子を報告すると共に、意見、要望、を伺い運営やケアに反映するよう取り組んでいる。	訪問時や毎月の請求書送付の際、日々の様子を報告する中で意見、要望の把握に努めると共に年4回のホーム便りを送付し、現状を把握してもらっている。いろんな場面で、気軽に意見や要望が出やすい雰囲気づくりに努め、それぞれの場での意見等は反映させている。又、個々に対応もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から自由に話し合える雰囲気づくりに努めている。全体会議やフロアミーティングでは、全員が自発的に意見を述べている。また、外出や行事などは、職員が主体性を持って企画、立案を行っている。改善点の大小に関わらず本社と連携を取りながら、改善に努めている。	日々気づきがあれば、その場で聞いている。また、ミーティングや申し送りなどで聞く様に務めると共に連絡ノートを利用することもあり、気軽に何でも言える関係ができています。いろんな場面での意見等は、全体会議で検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場環境作りに努めている。個別面談を行い、職員の努力や成果、悩みについて把握し向上心をもって働けるよう目標設定し人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会に可能な限り参加し、ケアの質の向上に努めている・研修参加者は自施設内において勉強会を含めた報告会を実施し職員の育成に努めている。毎月研修発表者を決め研修報告会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所連絡会に参加し情報交換し合い運営に活かしている。連絡会の合同研修会に参加しスキルアップを図るとともに、他施設の方との交流を深め意見交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至る過程において、事前面接で本人に会い、生活状況を把握し本人の心身の状態や表情・何気ない言動を拾い、不安や要望等に対応するよう、口頭、記録により職員間で情報提供しあい、共通の認識の下援助にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・困り事を伺い、具体的な対応を提示する事で、不安の解消に努めている。性格・生活歴・サービス利用状況・要望を伺い、援助に繋げている。初期段階では細かな家族連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にしっかりと話を伺った上で、本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、必要なサービスに繋げるようにしている。他のサービスを含め考えられる支援について情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割作りに努めている。共に暮らすという意識を持ち、人生の先輩から学ぶ姿勢で、個人を尊重し互いに支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活の様子をお便り、面会時等で伝え、日々の生活の出来事や気付きの情報共有に努め、家族の思いを含めた支援を行い、共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関わりの中で、情報収集し面会に来て頂いたときに近況報告し関係性を保てるようにしている。家族様との外出の機会を取り入れ、馴染みの環境や人との交流の時間が確保できるように努めている。年賀状や手紙の送付、又、電話をかけたりと関係性の維持に努めている。	家族や親せき、友人の訪問もある。常に訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。お正月には日帰りする方や法事があれば行かれたり、また、家族と外食されるなど関係が少しでも長く継続できるよう柔軟な支援を心掛けています。手紙のやり取りをされている方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について職員間での情報共有に努めている。認知度ADLの差に合わせ、援助を行っている。挨拶・会話の橋渡しをすることで利用者様同士の人間関係づくりに努めている。また、共に家事を行う事で、協同生活の実感を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、転所先には情報提供を行っている。入院された場合には、見舞いがてらに訪問し、関係作りを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、表情やつぶやきから汲み取り、思いに添った支援に努めている。また、その事が職員全員が把握できるようカンファレンス、ミーティング時に話し合いを行っている。情報を共有しながら利用者様の意向に沿ったケアを心掛けている。	会話する時間を多く持ち、会話の中で話題を膨らませ、多くの言葉が引き出せるように心がけている。口頭で言われる方もいる。外出、買い物等の希望が出れば行かれたり、食べ物は食事に取り入れる等可能な限り思いに沿うようにしている。表出困難場合は表情や家族の協力、生活歴から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族、サービス提供事業者からの情報を基に生活歴・馴染みの暮らしの把握に努めている。また、面会時、家族からの情報や知人からも情報を頂いている。その人らしい暮らしが送れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身状態・生活リズムの把握を行い、小さな変化にも気付けるよう状況に合わせた援助を行っている。観察点は、連絡ノート・記録により情報の共有をし、統一した援助を行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及びご家族の意向を聞き、利用者様にとって何が重要かを職員間で意見を出し合って現状に合った介護計画を作成している。随時見直しを行い、家族様にも要望を伺い変化がある場合は検討し介護計画を見直している。	家族、本人の希望、主治医の所見、カンファレンスで個々の課題やニーズについて職員の意見を集約し、それらを基に担当者会議で検討し、柔軟な計画を作成している。家族の承諾も得ている。モニタリングは3ヶ月、見直しは6ヶ月となっている。状況によってはその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況援助の実施結果を記録。個人記録へは生活の様子を本人の言動と共に、気づきを記録。身体状況の把握を行う。記録は全職員が目を通し、情報の共有に努めている。また、記録を基にした計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関・家族・専門職(リハビリ・看護師)との連携を取りながら、その時のニーズに合わせて対応できるように健康管理に努めている。定期受診・日々の買い物だけでなく、利用者の希望を汲み取りながら外出に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の思い、希望に添って出かけている。買い物や食事必要に応じて各分野からの協力が得られるように働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族様と今まで通いながれた、かかりつけ医に受診して頂くが、家族、ご本人様の希望を聞きホームの医療連携医の定期的な往診及び受診を受けられるようにしている。また受診の際には、職員も同行し適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関の往診もあり、訪問歯科支援もある。希望のかかりつけ医や他科については基本家族対応であるが、家族の要望があれば事業所が通院支援している。非常勤・看護師の職員がいるため日々の健康管理はできていて安心であると共に24時間いつでも主治医の支持が得られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常の関わりの中で、状態の変化や気づきは、看護師に随時報告し、助言を受け適切な医療や看護を受けられるよう支援している。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制になっている。家族了解のもと対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞い、家族とも情報交換をしながら回復状況等確認し、病院関係者と連携を取り、退院時カンファレンス等に参加し、情報交換等を行い、再入居に向け連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルについて家族に話し希望があれば支援していく方針である。重度化した場合や終末期のあり方について事業所として出来る事、出来ない事を家族に伝え家族、本人の思いに注意をはらい、かかりつけ医の見解、事業所の対応等話し合い、方針を共有し支援していく。	利用開始時、見取り指針にて説明し、理解は得られている。状況変化が起きた場合は、家族にその都度、意向の確認をし、思いに沿った支援を行っている。希望であれば、家族、主治医、看護師と再三にわたり話し合い、方針を共有し、医師の指示に従ってチームで支援している。状況は細かく家族に報告をし、家族の協力を得ながら対応している。研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修にて、救急蘇生法の研修を年1回行っている。急変時や事故発生については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に看護師より指導・処置を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防火災訓練年2回及び防災避難訓練年1回を実施し、手順を確認すると共に日頃より危機意識を持って生活するように取り組んでいる。また、消化器の使い方や救護方法・災害時机上訓練を行い行動の確認をした。	年2回、消防署指導の下、通報、消火、避難誘導の訓練を行い、実践力を身に付けるよう努めている。また、災害(地震、水害)時の机上訓練も行い、ガイドラインも作成している。地域との協力体制もできている。また避難誘導後、2次被害にならないような工夫もされている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行い読み合わせを行い周知している。。声かけも互いに注意し合い業務を行っている。排泄・入浴場面においては、特に意識を高め、羞恥心に配慮した援助を行う。個人情報等十分に配慮し取り扱っている。	個々の沿った声かけや対応をするよう日々周知している。自分がされて不快に感じる声かけはしないという事を徹底し、なれ合いになっても節度ある対応を心掛け、気づいた時は職員間で注意しあっている。基本となる排せつや入浴、居室訪問等十分に気を付けるようにしている。研修もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、気持ちに耳を傾け解りやすい言葉かけや選択肢のある声掛けで自己決定しやすい場面を作るようにしている。意思表示が困難な方は、表情を汲み取り本人が決定する場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を楽しく過ごせるように、出来るだけ本人のペースにそって体調を見ながら、その時の気持ちを尊重し個別の支援、外出を行っている。援助を行う際には、目的を説明し、個々の能力・意欲を引き出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服と一緒に選んだりしている。また、訪問カットで好みの髪型にしている。日々の整容を能力に合わせて見守り・援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に応じて、準備から片付けまで、出来ることは職員と一緒に本人の意志を確認して、手伝って頂く様をお願いしている。また会話の中から希望を聞き、献立の中に取り入れている。	旬の食材で季節を味わってもらい、栄養バランスにも配慮され、食をそその盛り付けとなっている。個々のペースに合わせ急がさず、食材や世間話、また、時折食を促す声掛けをされ、職員も同じテーブルを囲み楽しく食されている。力量により、食器洗いや下膳など、自分の役割として積極的にされている。労いの言葉もかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が一目で分かるチェック表があり、それを活用し把握している。水分量は1200cc～1500cc/日を目安に確保してもらっている。水分制限のある方は、かかりつけ医の支持のもと対応している。食事が進まない方は、個々に応じて食事形態を調整、工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は適切な口腔ケアが及ぼす健康維持への効果を理解し、毎食後には必ず口腔ケアを実施している。その方の力に合せ、見守り、声かけ、介助を行っている。自立の方に対しても、口腔内の観察も行い、義歯の状態、変化があれば歯科受診をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄パターンに添った対応を心掛けている。また、出来る限りトイレでの排泄を促し、オムツが必要な方には十分な検討を行い、使用するようにしている。	個々の時間帯で声掛けをし、トイレでの排泄に努め、生活習慣や機能維持(立位、座位をすること)に繋げている。自立の方は見守りで対応し、プライバシーにも気を付けている。おむつ軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、個々の排泄状況並びに食事形態及び水分摂取量の内容には常に気を配っている。また、一日の活動量も踏まえると共に、排便間隔及び便の形態を常に確認するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日毎に一応の対応は決めてはいるが、気分が優れない時は、無理強いをしないようにし、タイミングが合えば入浴してもらうようにしている。その場合の時間や曜日の変更は随時行っている。	週2回、時間帯も決めてはいるが、その日の体調や希望に沿い、自由に入浴してもらっている。湯温などの希望にも対応し、楽しみとなるよう配慮した支援をしている。拒否に対してはタイミングや対応者を変えるなど、いろんな工夫をしながら清潔保持に努めている。決して無理強いはしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、休息場所や寝具類の検討を行っている。また、メンタル的な不安要素等に関しては、安心していただけるまで付き添いを行い、傾聴している。日中の活動量にも留意し関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を綴り、効能、副作用について確認できるようにしている。服薬目的及び内容を理解し、適切な服薬支援に努めている。また誤薬防止の観点から、複数人による確認体制と、個人別に服薬を渡し、服薬するまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を把握すると共に、生活の中で本人様の経験などを把握し生活に多くのものを取り入れる様にしている。出来る事、出来ない事を把握し、自ら行えるように支援している。季節の行事を大切に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての援助は出来ない面もあるが、ご家族様にご協力頂き、外出・外泊の機会を持って気分転換を図っている。又、日常会話の中で、行ってみたい場所等を聴取し、ドライブの行き先を決めたり、戸外へ出かけ、閉じこもりにならないよう気分転換を図っている。	四季の外出(お花見等)や少し遠出の外出(島根)も年2回、計画を立て出かけている。また、希望で買い物やドライブなどにも行かされている。家族と外出される方もいる。できるだけ楽しみ事、気晴らし、五感刺激となる支援に努めている。また、天候が良い日には近隣を散歩するなど外気に触れる機会も持たれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人による直接的な金銭管理は行っていないが、希望する商品があれば、可能な範囲で一緒に買い物に行くようにしている。また、商品購入要望のみでも購入し渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送っているが、利用者の状況に応じて対応している。本人が電話連絡を希望される時や、家族より贈り物が届いた時等家族と会話する機会を設けている。知人の方からの電話の取り次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じる事が出来る。ソファ等も設置し、くつろげるスペースとなっている各箇所の清掃は毎日行っており、清潔感を維持している。テーブルや洗面台等季節の花を生けて心が落ち着くよう工夫している。	玄関やリビングの要所要所には、季節の花が生けられ、季節を感じてもらっている。三点セットやソファも置かれ、それぞれが好きな場所で過ごすことができる。壁面には装飾品も飾られ、明るく、四角もなく、不快な匂いもなく、清掃も行き届き、快適に過ごせる共有の場となっている。食事準備の匂いや音が五感刺激となり、生活感のある共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロア共にテーブル及び椅子を設置したスペースが2箇所とソファを配置したスペースが1箇所あり、入居者それぞれの思いにより自由に過ごせるようにしている。利用者様同士で居室で一緒に過ごされたり、くつろいでおられる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、昔馴染みの身の回りの物や家具・調度品等を持って来て頂くようにしている。またポスター等も壁面に飾れるようにしている。	家具(箆笥、いす、飾り棚、鏡等)や思い出の写真、手芸品、造花等が多く持ち込まれ、自分らしい、レイアウトで違和感のない工夫、また、落ち着いて過ごせる様な環境づくりとなっている。居室のドアの名前ボックスには緊急時のため、名札の裏に身体状況を書かれ、救急時の2次災害が起きない工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の表札・目印の設置により、自室が分かり易い工夫をしている。また、バリアフリーであり、福祉用具の使用も全く支障はなく、エレベータの使用により階層を行き来する事が出来る。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2／3くらいの			○	②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある			○	②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
		○	②利用者の2／3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2／3くらいが			○	②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2／3くらいが			○	②利用者の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③利用者の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2／3くらいが			○	②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名：グループホーム楽居

目標達成計画

作成日：令和 元年 10月 23 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		接遇面において、目線を合わせた会話や尊敬を持った言葉使いができている時もあるができていない時もあるため、常に出来るようになる。	接遇について職員同士で注意し合える環境が作れるようにする。	毎月のフロア改善目標に掲げ、モニタリング実施し毎月のミーティングにて実施状況を確認する。	12ヶ月
2		全体的な介護支援であるため個別対応が少ない。	個別性のある介護支援を実施していく。	個人が何をしたいか聞き取り一人ひとりがやりたい事に対して支援する。	12ヶ月
3		職員の都合で動いている部分があり、利用者中心でない時がある。	利用者中心の支援。	利用者の行動にあわせて職員が動いていくようにする。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。